

## 鹿嶋神宮參拜（御船祭）

山内 裕子

平成二十六年九月二十四日

昨夏鹿嶋神宮を參拜す。鹿嶋神宮御祭神は武甕槌大神なり、其の創建は二六七四年前、初代・神武天皇御即位の年に當る。神武天皇東征途上に於ける大神の、靈劍による守護に謝し鹿嶋に大神を敕祭し給ふ。武甕槌大神は此れに先立つ神代の昔、天照大御神の命を受け葦原中國といはれし我國の國讓り國造りに御神威を發揮せらる。其の御威徳を偲び武の神と崇めらる。

東關東自動車道を下り田舎道を走り利根川を渡る。利根川に建つ一之鳥居、朱の色鮮やかに水面に映る。鹿嶋神宮大鳥居は東日本大震災に倒壊す。武甕槌大神を祀る本殿は徳川秀忠公奉納し、奥宮たる舊本殿は家康公の奉納なり。早朝の神宮の森は深く嚴かなりき。鯰を鎮むる要石あり、幕末の鯰繪描く鹿嶋大神の庶民信仰を思ふ。御手洗池の水こんこんと湧き出づ。資料館に九尺もの鐵劔あり目を引く。常陸風土記も残る土地柄、鹿嶋と春日大社との縁も深し。萬葉集防人の歌も水戸學の起りも此の地なりけり。

參道に御船祭の掲示を見つ。十二年に一度の午年の秋に齋行せらるる一陽來復の願ひ籠めたる祭なり。是非とも御船祭を見たと今夏再び、臨時特急電車の旅に参加す。潮來の河岸にて龍頭の御座船到着を待つ。百艘餘り華やかに飾れる船團現れ、さながら平安時代の繪卷の如し。日本武尊の山車、倭に白鼠の山車もあり、國家安寧、豐作を祈る古代神話の世界を感じ、緩やかなる時間流る。人々集ひ、袴姿の年配者、袴纏姿の子供共々地元擧げて祭を祝ふ。船團戻る頃合ひ見計らひ我等も一之鳥居に移動し御座船を迎ふ。坂東太郎利根川の川幅悠々たり、遠く國旗、吹流しの靡くさま清らなりけり。祭囃子、數多の馬の出迎へあり、神々の御靈祀る祭の熱氣に心躍る一日なり。邪氣を清め祓ひ、憂きこと水に流し天下泰平を祈る。新たなる十二年に篤き願ひ籠め心奮ひ立ちにけり。